

2025年9月10日（第1版）

リハビリテーション科に、通院又は入院中・過去に通院又は入院された
患者さんまたはご家族の方へ
臨床研究に関する情報

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和5年3月27日一部改正）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] 脳損傷後注意障害における障害構造のモデル化：構造方程式モデルを用いた分析

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院・病院長 南須原 康行

[研究責任者名・所属] 澤村 大輔・保健科学研究院リハビリテーション科学分野
北海道大学病院リハビリテーション部

[研究の目的] 標準注意検査法（Clinical Assessment for Attention; CAT）を用いて後天性脳損傷(Acquired brain injury; ABI)患者における注意機能の複数の構成要素間の相互関係を検討し、その障害構造を明らかにすることである。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

当院のリハビリテーション科にて実施された臨床研究「高次脳機能障害者の就労支援における神経心理学的検査の有用性～機械学習を用いた検討～（指023-0405）」*に登録された方、および当院のリハビリテーション科に入院された方のうち、2007年4月1日から2023年12月31日までの間に入院したABI後注意障害の18歳以上の方。

*臨床研究「高次脳機能障害者の就労支援における神経心理学的検査の有用性～機械学習を用いた検討～（指023-0405）」は、当院リハビリテーション科において、2007年4月1日から2023年12月31日の間に高次脳機能障害と診断され18歳以上65歳未満の方を対象として、カルテ情報（診療情報）とともに高次脳機能評価結果を分析し、退院後の就労状況を予測するうえで重要な要因およびその水準を明らかにすることとして実施しました。

○利用する情報

2023年12月31日までのカルテの情報（診療情報）を利用させていただきます。

また、「高次脳機能障害者の就労支援における神経心理学的検査の有用性～機械学習を用いた検討～（指023-0405）」にて収集した下記の情報も利用します。データベースに不足する情報がある際にはカルテの情報（診療情報）を利用させていただきます。

年齢、性別、神経障害の既往歴、受傷日、入院日、受傷後経過日数、検査結果（MRI

2025年9月10日（第1版）

所見、神経心理学的検査)

[研究実施期間]

実施許可日(情報の利用開始: 2025年11月頃)～2027年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[北海道大学病院の連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北区北14条西5丁目

北海道大学病院リハビリテーション部 研究責任者 澤村 大輔

電話 011-706-5740 FAX 011-706-5740